

消費税率引上げ後の消費動向等 について（8月第4週）

平成26年8月29日

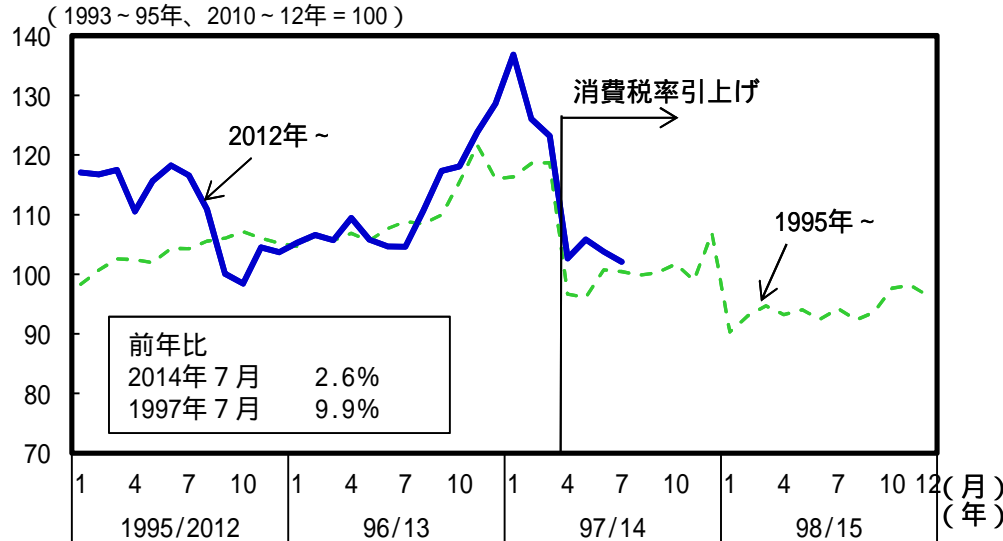
内閣府

自動車・家電販売の動向

自動車販売（除軽、登録ベース）は、7月は前年比でマイナスとなった。

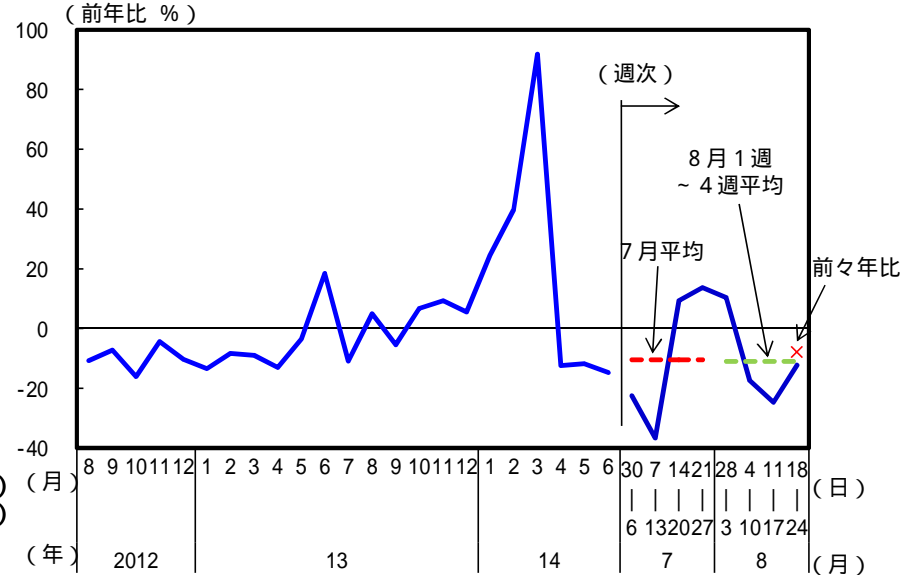
主要5品目の家電販売は、8月第4週では、エアコンを中心として前年比マイナスとなった。なお、前年の影響を排除するため前々年と比較してもマイナスとなっている。

新車販売台数（含軽）



(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜）



(備考) GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により作成。テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。

自動車販売台数（除軽、登録ベース）は、8月第4週は、前年比でマイナスとなった。昨年が新型車の登場で高めにしていたことも影響しているとみられる。また、実勢としては、受注が弱いことや目立った新型車がないことから、8月も7月から横ばいの状況が続くとみられる。

【業界団体A】

軽自動車販売台数（届出ベース）は、8月第4週は、7月に引き続き前年比でマイナスとなっている。7月以降軽自動車が厳しい要因としては、消費税率引上げの影響に加え、昨年7月以降に新型車が好調であったことの反動もあると考えられる。

【業界団体B】

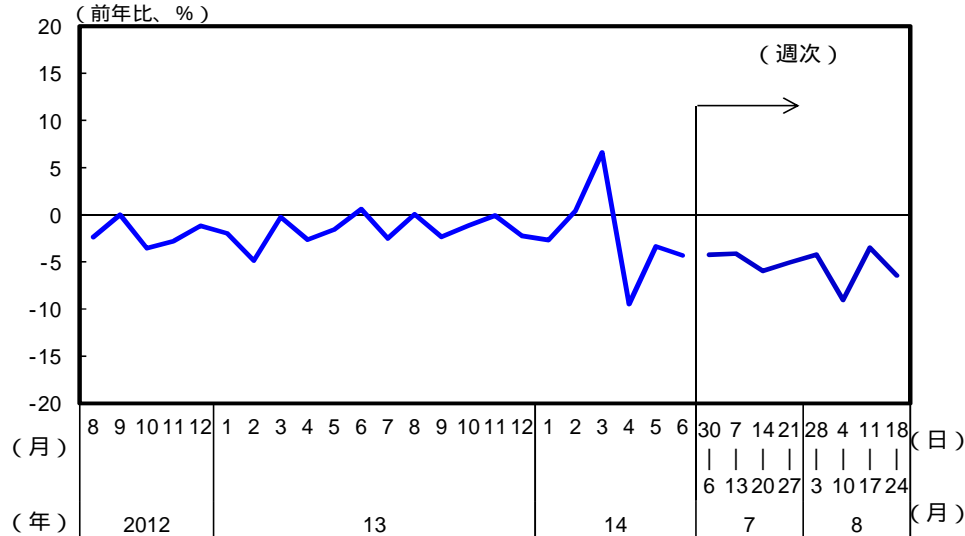
8月第4週は、エアコンが前年比でマイナスに寄与し、全体でもマイナスとなった。前年が例年に比べ気温が高く、エアコンの販売が好調だったことが主な要因とみている。なお、都市部と地方を比較すると、増税後の販売の動向について、都市部と地方とでそこまで目立った差異はみられない。

【市場アナリスト】

飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

スーパーの売上は、8月第4週では、前年比マイナスとなった。

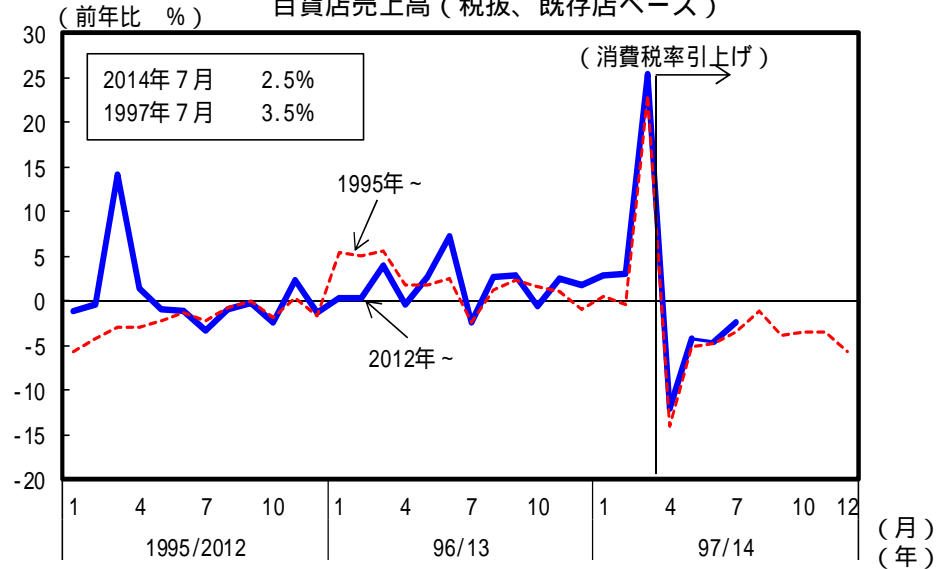
飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）（税抜）



(備考) 1. KSP（全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計）により作成。
 2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。
 3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。
 4. 7月第4週は、祝日の影響を取り除くため、7月14日～27日の2週間の前年比を算出している。
 また、直近のデータは、速報値。

8月第4週の売上は、前年比マイナスとなった。

百貨店売上高（税抜、既存店ベース）



(備考) 日本百貨店協会等により作成。

8月第4週の売上は前年比でプラスとなった。どの品目でみても総じて売上は前年を上回った。当社独自の企業努力もあって、増税後ほぼ持ち直してきていると認識している。
【食品スーパーA】

サービス消費は、旅行については、6月はほぼ前年並みとなった。外食は、天候要因に左右されているものの、底堅く推移。

予約状況については、全体の傾向は先週から大きな変化はみられない。ボーナスの影響もみられ高額商品の売れ行きは好調であるものの、消費者の節約志向もうかがわれ、低価格商品は伸び悩んでいる。
【旅行会社A】

8月第4週の売上前年比は減少。8月全体としては、前年比若干の減少になるかもしれない。都市部と地方の店舗の間で、客足の差や消費の傾向の差ははっきり見えない。
【百貨店A】

消費税率引上げ後、都心店は、郊外店・地方店より回復が強い、という印象がある。
【百貨店B】